

多摩アマビ会報

100号記念特別号
発行2012年1月28日

『多摩アマビ会報』100号記念特別号



事務局だより 第1号



会報 第1号



会報 第50号



会報 第100号

「会報100号発行までの道のり」

渡辺 實（代表幹事）

NHK 多摩アマチュアビデオクラブが平成10年に発足してから3年後の平成13年7月、伊藤勝之・総務幹事が現在の会報の前身である『NHK 多摩アマチュアビデオクラブ事務局だより』を創刊されました。以後、平成15年5月までの2年間に「事務局だより」は11号までが不定期に発行されました。



現在の『多摩アマビ会報』は、代表幹事が初代・浅尾義明氏から渡辺 實に交代した平成15年度から、佐藤 寛・総務幹事が7月に創刊号を立ち上げて下さいました。以後、毎月発行で第4号まで、佐藤幹事が記事の文面からレイアウト・印刷までの一切を取り仕切って下さいました。

第5号から第13号までは石原恙逸・書記幹事が担当され、記事本文は渡辺が作成して石原氏に送る“共同作業”で進められました。パソコンのOSが石原氏はマック、渡辺はウィンドウズと異なっていたこともあり、大変なご苦労をお掛けしました。

第14号から第31号までは奥川 實・書記幹事が発行に携わられました。その頃には渡辺が本文記事、会員発表作品のタイトル画像の位置など、全体の粗レイアウト（割り付け）をした原案を奥川氏に送り、それを土台として仕上げていく、という流れになっていました。奥川氏は編集作業の困難な局面について熱心に研究・検討されて解決し、その成果を「会報作成法」（A4版、3頁）として残して下さいましたので、以後に編集技術を学ぼうとする人々に大変有益な資料となっています。

第32号から第54号までは菅原富雄・書記幹事が担当され、渡辺が作成・送付した原案に作品タイトル画像を調整・貼り付けた上で印刷する作業を行われました。

そして第55号以降現在までは、渡辺がすべての作業を単独で行っています。

以上の経過をたどって、「事務局だより」発行以来 10年6ヶ月の平成 24年 1月に会報の 100号が発行されることとなりました。

「会報 100号によせて」

伊藤 勝之（元 総務幹事）



会報の「多摩アマビ会報」がこのほど 100号を数えることになりました。創立準備、創立当初の役員をした会員として感慨深いものがあります。

会報と事務局だよりの発行期間を併せると 10年を超える歳月です。これは「NHK」の冠がつくクラブとして地道ではありますが、活動の結実の証だと思います。誇りにしたいと思います。

当クラブが創立して暫らく時を経て会報の前身となる「事務局だより」を会員への情報伝達の手段として隔月発行の形でスタートさせました。載せる情報の多くはNHKアマチュアビデオ事務局から得ていました。当時は「電子メール」という便利な道具が今ほど普及していなかったため、連絡、そして情報入手には電話とFAXで行いました。

電話とFAXでの情報のやり取りを思うと時代の変化と懐かしさをも感じます。そして事務局だよりの発行でも当時のNHKアマチュアビデオ事務局担当の志村茂樹氏にはお世話になりました。今でも当時のやり取りが記憶の中に鮮明に残っています。

これから先、150号、200号という未来があります。時の流れとともに会員は代っていてもNHKという冠のついたこのクラブは名に相応しい活動を続けていくものと期待しています。

「100号発行に寄せて」

佐藤 寛（元 総務幹事）



会報 100号発行 おめでとう御座います。会員の皆様に心よりお祝い申し上げます。そして今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

渡辺会長より「会報の創刊者として一言」とご依頼がありましたので、あえて一言申し上げます。

クラブの発足当時は会報も無し、反省会もなしの状態でした。会員相互の親睦や励ましの無い会は気のぬけたビールのようなだとさびしくなり、発刊の定期化を役員会に提案させていただきました。

勿論趣旨には皆さん賛成でした。でも誰がそれをやるのかということになると皆 遠慮され、結局言いだしっぺの私になってしまったのです。

いま考えると随分いい加減でしたが「だれかが先鞭をつけなければ」とやったと記憶しています。結局その後はみなさんの力で立派な会報になりました。

今後は会報で会員相互の意見交流等を活発にして一層の前進をするよう拍手をお送りします。

「NHK多摩アマチュアビデオクラブ会報」100号おめでとうございます。

石原 恙逸（元 書記幹事）



早いもので、会報創刊から8年4ヶ月。創刊当時私は70歳。代表幹事の渡辺 實氏より「NHK多摩アマチュアビデオクラブ会報」を発刊しようと言うご提言があり、佐藤 寛幹事に会報の発刊と同時に会報の雛形を作成するようにとの要請があり、佐藤幹事が創刊号から第4号までを担当され、会報の雛形も完成されました。

第5号から私にバトンタッチされましたが、当時はパソコンを始めたばかりで、ビデオの編集がやっとと言った状況でした。そこにこのような会報の制作担当という重責を任せられ、雛形があるとは言え自分に出来るのか不安でした。渡辺代表幹事が原稿と写真の手配をされ、保戸塚時久・元幹事が会員の顔写真を私宛送ってくださることになり、幾分気が楽になりましたが、当時私のパソコンはマックでした。100%近くの方はウィンドウズで、渡辺代表幹事もウィンドウズでした。私に送付された原稿が文字化けすることが度々あったり、またフォントがウィンドウズとは違ったり、ポイントが同じでも多少大きさが違うなど、渡辺代表幹事からの原稿をそのまま使用することは難しく、結局新たに原稿を打ち直すということが度々ありました。

またこの会報の紙面を作るに当たってはワードの基礎的技術を駆使しなければ出来ないもので、ワードを使ったことのない私としては手の下しようが無く、「ワードの使い方」の本を購入し、首っ丈で勉強しながらの試行錯誤連続でした。

渡辺代表幹事に校正その他ご指導を頂きながら、何とか会報を作ることが出来るようになり、号を重ねるごとに自分なりの紙面を作るように心がけることが出来る様になりました。

一応何とかこの重責を全うすることが出来たことは、偏に渡辺 實代表幹事、佐藤 寛幹事のご指導の賜物だと感謝しております。

私の後を引き継いでくださった奥川 實幹事、菅原富雄幹事の二方のお力で100号に達したこと本当に喜ばしく思っております。

この素晴らしい会報が未永く発刊されますよう心よりお祈りいたします。

「書記の当時を振り返って！」

奥川 實（元 書記幹事）



「100号記念特別号」発行！本当におめでとうございます。

会報発行に関与したと言うことで、執筆することになりました。思い出すままにまとめてみました。「多摩アマビ会報」の発行を担当したのは、第14号（平成16年8月号）から第31号（平成18年3月号）までの18ヶ月間です。当会に入会してまもなく幹事（平成16年4月）に選ばれ、当会の事情が全く判らない時でしたので、前幹事の石原さんから暫くの間ご指導を賜りながら、慣れぬパソコン（ワード）に取り組みました。

まず戸惑ったのは石原さんのワードはOSがマック（アップルコンピューター）であり、私のOSはウィンドウズです。4月より暫くの間、石原さんから懇切なご指導を戴き、8月より独立して、会報を作成して皆さんに届けることが出来るようになりました。

それから平成18年3月まで、18回の会報作成・印刷を担当致しました。その間の苦労話や思い出話などを回顧したいと思います。

当時の会報の作成の流れは会長が会報の原案を作成しメールで送信されて来ます。基本的にレイアウトされた原案に、諸作業を行って版下を作成し、完成したらプリントアウトして、次回例会で会員に配布します。

作業の手順として 1. タイトルの作成 2. 会員から送られた「わたしのビデオ」の原稿を所定の枠内に作成 3. 作品のタイトル画像を所定の場所に貼り付けです。一応終了したら全体の内容の手直しを行って、会報を完成させます。

以上が書記としての役割（会報発行）ですが、個々の作業について振り返りましょう。

1. タイトル欄等の作成作業

タイトル文字は、本会報の顔だと思っていましたので、文字のフォントには拘りました。フォント集のCDから、「半古印体」を選びました。このファイルをCDからパソコンに取り込むのですが、どのように取り込むのか苦労しました。

「スタート」→「コントロールパネル」→「フォント」を選択する。メインメニューの「ファイル」→「新しいフォントのインストール」をクリックすると「フォントの追加」画面が標示される。CDをドライブに入れて「フォントの一覧」からファイル「HG 半古印体&・・・(TrueType)」を選んで「OK」して取り込む。

とにかくこのような操作は、初めての経験であり、非常に勉強になりました。

タイトルを記入して、全文字を選択して「横書きテキストボックス」をクリックして枠内に収める。所定の大きさまで枠を伸ばし、全文字を選択してフォント・サイズ、文字体裁等を設定する。さらに「テキストブックの書式設定」をクリックしてバックの色を選択し、タイトルを完成する。このバックの色は薄い色で、3～4か月毎に変更して変化をさせています。（これは会長からアドバイスを頂きました）お陰様で、今もこのフォントのタイトルが使用されているのは非常に嬉しいです。

タイトルの脇にある発行日等は3行にまとめ、「横書きテキストボックス」の枠内に収め、フォント・サイズの変更や行間の間隔を調整して完成させます。

2. 「わたしとビデオ」欄の作成作業

この会報は横書きテキストが基本ですが、この欄だけは縦書きテキストを挿入することになっていたので大変です。さらに顔写真やタイトルおよび名前まで挿入するので一工夫が必要です。

まず、会員から預かる原稿（約250文字）をまとめて横書きに記入し、全文字を選択して「縦書きテキストボックス」をクリックし、縦書きに変更します。顔写真やタイトルおよび名前を挿入するために最初の5列ぐらいの空間を作ります。

その空間にまず、顔写真（これは保戸塚 元幹事が会員の入会時にこまめに顔写真を撮影したものを利用）を挿入します。タイトルや名前も「縦書きテキストボックス」として作成し、それぞれ縦に並べます。顔写真やタイトルは収まりますが、本文が予定の枠より大きくずれることがあります。この調整に苦労します。フォントサイズや行間を調整して枠内に収めます。

2人分の記事を掲載する時は、中間の枠内に「わたしとビデオ」および図柄欄を挿入するのですが、これも苦労します。両者の原稿のサイズに差があるときは、文字サイズを若干変更したり、列間の調整はもちろんのこと中間の枠のサイズや位置の変更にも気を遣います。

3. 画像の貼り付け作業

最も苦労したのが、このタイトル画像の貼り付け作業です。スムーズに画像が貼り付いて作業が終了したという記憶がないほど手こずりました。

最初の作業として、ほぼ同サイズの画像をある程度の数は順調に貼り付くのですが、その次の画像を貼り付けると、今までちゃんと貼り付いた画像がとんでもない場所に移動しているのです。全く予期しない場所に飛ぶので探すのにも苦労するのです。同時にせっかく書いた文章までがあらぬ場所に散ってしまうのです。

何回か繰り返し、戻しているうちに理由は判りませんが、落ち着いて来るのです。当時、先輩諸氏から色々貴重なアドバイスを得ながら、貼り付けるのですが、それがなかなか思うようには張り付かないのです。このとんでもない処に移動してしまう（画像が飛んでしまう）のには悩みました。

タイトル画像の貼り付け方法として、学んだことは次の通りです。

1) 会報に貼り付ける画像は、一般に3cm²位の枠なので画像サイズは100KB程度に圧縮しておくのが良い。

2) 画像を挿入すると、大きく貼り付けられるので、四隅のマークを摘んで3cm²位迄縮小すると、ほぼ正常な位置に復元され貼り付く。

3) 画像の設定処理が必要である。画像の上で右クリック→「図の書式設定」を選択→「レイアウト」→「折り返しの種類と配置」で「外周」を選択する。「水平方向の位置」で「その他」を選択して「OK」。

このような複雑な処理により画像を自由にドラッグしても移動しなくなり、文章も散らないようになる。

上記の3つの方法を駆使しながら版下作成を一応終了すると、一段落し、最後の（編集後記）を記入して、会報作成作業が完了し、胸を撫で下ろしたものです。

書記の役目は、この会報の作成が主であります。会員分のプリントアウトをして次の例会の出席者に手渡したり、また欠席者には、会長経由で郵送していました。

その他、プリントアウトする用紙に少し配慮しました。両面印刷で作成していましたが裏がどうしても透けて見えることが多かったのですが、色々検討して当時の用紙はEPSON社の「スーパーファイン紙」で紙厚は0.12mm、紙質はマットで、写真が入ったカラー文書等の用途に適した専用紙を使用していました。（型番：KA4100NSF）因みに価格はA4：100枚入りで約¥600でした。

今、振り返って見ますと、当時は会報の作成に一生懸命だったので脇見をする暇がありませんでしたし、とんでもない役を引き受けたな・・・と後悔する気持ちもありました。

でも、僅かですが、ある期間幹事となって書記の役を務めることで会員の方々との交流が出来たことおよび慣れなかったパソコン操作に大きな刺激が入り勉強になったのは、本当に良い経験をさせていただいたと思っ今、感謝しています。

この会報が、今後ますます会員の皆さんに喜んで頂き、発展される事を祈念します。

多摩アマビ会報「100号発行記念」に思う

～ 会報のPDF化とホームページへの掲載 ～

菅原 富雄（元 書記幹事）



私は平成17年に総務幹事となり、翌年の18年から書記幹事として会報作成のお手伝いをしました。

32号から54号までの会報の中で、タイトル画像の貼り付けとその画質編集が主な内容となります。

会報の文章やページレイアウトは渡辺代表幹事が Microsoft の「Word」で原稿を作成していましたので、その後の処理です。原稿の中にはダミーの画面が貼り付けてあり、それを会員のタイトル画像に差し替えるわけです。

そのために当初は会員の作品テープを持ち帰り、パソコンやビデオカメラでタイトル画像を切り出しましたが、やがて E メールで画像を送付する会員が増えるようになり、作業が楽になったことを思い出します。

高齢者の会員も確実にインターネットの活用に取り組んでいたのです。

画像処理といっても、作品のテーマ毎に画面サイズの変更や画質の調整（明るさとコントラスト）をただで、時間を要したのはタイトル画像の貼り付け作業でした。

ソフト「Word」は、画像の貼り付けの操作性は悪く、わずか1mmの画面位置やサイズ変更でもページのレイアウトが大幅に変わり、場合によっては別のページが飛んでしまうという難点がありました。慣れない私には一番時間のかかる作業で、必ず元の原稿に戻れるようにバックアップを取る必要がありました。

また、会報トップのタイトル「多摩アマビ会報」は“半古印体”という特別のフォントを使用していて、当クラブの特長を表しているトレードマーク的なこだわりの意味を持っていました。

当初はこのことを深く考えず、自宅のパソコン Windows2000 にそのフォントが内蔵していないこともあってフォントを無視して原稿を送付したところ、仕上がりが悪く幹事を失望させてしまったことを思い出します。

早速、CD-ROM を借りてこのフォントをインストールしたわけです。

一方、任期中にホームページを開設する計画が持ち上がり、会報もインターネットで公開する方向で検討が進められました。そして、関係者の努力でホームページがオープンしましたが、当初は会報を「Word」形式のまま掲載していた関係上、このソフトを持っていない会員には読めないという事態が発生してしまいました。

そこで、誰でも読めるPDF形式を検討することになり、フリーソフトをインターネットからダウンロードして試用しました。最終的にはクセロPDF（xelopdf114）を利用することでホームページの会報はWordソフトを持っていない会員や外部の人にも見えるようになったわけです。

100号の発行記念で感じることは、会報の蓄積が当クラブの財産となっているということでしょうか。これまでの会報をインターネットで読んでみると、そこにはクラブの発展の歴史があり、関係者の努力や協力があり、そして会員の作品の蓄積や成長の過程を見ることができると思います。

そして、今後は当クラブの会報がホームページの動画機能を利用して更なる発展の可能性が出てくるものと想像しています。例えば、会報に掲載されている会員のタイトル画像をクリックするとその作品のビデオが再生され、作品のコメントを読みながらビデオ鑑賞するという新しい楽しみ方が期待できるものと考えられます。

以上 (2011/06/28)

「会報 100号」にむけて

伊藤 幸晴



NHK多摩ビデオクラブの会報 100号おめでとうございます。一口に会報 100号と言いますが、編集や発行に携われた皆さんにおかれましては、ご苦労も多かったことと思います。今まで地道に続けていただきまして誠にありがとうございました。心から感謝いたします。

「継続は力なり」という格言がありますが、会報はまさに地道な継続の賜物だと思います。

私は仕事で大きなプロジェクトに取り組むことがあります。これも大切なことだと思います。これに対して、長期にわたる小さなプロジェクトは、空気のような存在になります。しかしそれもとても大切なことだと思うのです。

会報もそんな空気のような存在なのだと思います。誰もが毎月発行されることを当たり前になっている。しかしその裏には、編集発行に関わっている方々のご苦労があります。これからも末永く続けていくために、感謝の気持ちを忘れないようにしなくてはならないと思います。

「会報 100号発行記念を祝して」

浅尾 義明

会報 100号発行に当たり、これまで担当された方々のご努力と労に対し感謝致しますと同時に100号発行に対しおめでとうを申し上げます。

私、NHK多摩アマビクラブの初代代表として



感無量の気持ちを隠し得ません。これからも皆様方の和気あいの楽しいクラブとして、会報が話題で溢れるよう発展することを祈ります。

「NHK多摩アマチュアビデオクラブ会報の100号おめでとうございます」

岩沢 初男



私も会報を1号からファイルに入れて大事に保管してあります。毎月のように作品を上映して頂き、また会報に載せて頂き、まことに有難うございます。

会長さんはじめ役員の皆さんには会のために色々とお働きくださり、誠に有難うございます。

NHKの山下チーフカメラマンには撮影会にまで来て頂き、手に取って指導して頂き、とても良い勉強になりました。あれから会員の皆さんがとても上手になりましたね。毎月会報をファイルに入れるたびに山下さんが載っている会報を見て、良い人だったなと思っています。惜しい人を亡くしましたね。

現在はNHKの海老沢カメラマンや塩原・森さんが来られて作品のアドバイスをして頂き、とても良い勉強になっています。

平成 23 年のクラブ内ビデオコンテストでは岩沢初男が最優秀賞を頂き、会報第 90 号に写真入りで載り、良い記念の 90 号となりました。

100 号までには撮影会もあるので良い作品を撮影・編集して会報に出したいと思っています。

宜しくお願いいたします。

並木 胡桃



NHK 多摩アマチュアビデオクラブの「多摩アマビ会報」100号おめでとうございます。

2001年の「事務局だより」に始まって毎月の定例会報告、会員の作品発表、講師の講評と、しっかりした内容の会報を作成してくださった幹事の皆さまに御礼申し上げます。

こんなすばらしい記録を残していただいて、感謝でいっぱいです。

これからもずっと勉強させてください。ありがとうございました。

渡辺 初男



NHK多摩アマチュアビデオ、会報出版 100号を迎えられて、心からお祝い申し上げます。

代表幹事はじめ役員の方々には大変ご苦労さまです。役員、関係者たちが制作した会報を何げなく頂いて見ておりますが、これだけの記事、写真をはめ込みながら大変な労苦と時間、頭脳が無ければ出来ないと思っております。感謝に耐えませんが、心からお礼申し上げます。

2012年正月で100号記念は新年明けで辰年で縁起が良く景気も立つ、NHK多摩アマチュアビデオクラブ会報100号立って、益々将来に向かって行くことを願っています。

「会報100号の歴史」

加藤 守



会報100号に歴史を感じます。以前、ビデオ編集を本格的に始めようと思い銀座ソニービルでの講習会に参加しました。

そのときに会ったのが講師の「浜谷修三さん」、その後もソニービルでの講習会に参加しましたが、厚木での東京芸大と厚木ソニーで開催した講演会に参加したとき「浜谷修三さん」と再会することが出来ました。

ビデオサロンのビデオクラブ通信に掲載されたNHK多摩アマチュアビデオクラブをネット検索して浜谷さんが関係していることを知り入会させていただきました。今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

作品を提出して会報に掲載されているのを見るのも楽しみでいしましたが、入会してからしばらくしてクラブ内コンテストで「ラムサール条約登録湿地 伊豆沼・内沼」が優秀賞に選ばれてホームページのクラブ内ビデオコンテストと会報に掲載された事が大変うれしく思いました。これからもNHKの「海老沢・塩原・森」3氏の講評を教訓にして自分なりの表現で作品作りに生かして行きたいと思います。

定年退職して自分の趣味で3つのクラブに所属しています。

最初に入会したのが「相模原グリーンビデオクラブ」ですが、保戸塚さんが講師を務めたYouTubeでの講習会にSGVCクラブ会員の「主カメラマン」が3名参加しました。

次にキャンピングカーの「ホーイとバンテックメーリングリスト」です。この「ホーイ」の中にプロのビデオカメラマンがいます。自分のブログに優秀賞の記事を載せ、会報をリンクした結果すぐに反応してくれました。

そして、「NHK多摩アマビ」です。

会報は全てホームページより印字してファイリングしてあります。全ての記事はまだ読んでおりませんが創設当時の記事を見るとクラブの歴史の深さを感じます。

この先、会報200号や創立20周年を目指してクラブの発展を願うばかりです。

「多摩アマビ会報 100号記念特別号を祝す」

黒澤 眞



多摩アマビ会報が発行以来100号を迎える事になりました。誠に喜ばしい事です。

私がNHK多摩アマチュアビデオクラブに入会したのは2007年8月の例会からですが、その時の最新版47号の会報と併せて過去に発行された会報の内2005年8月発行の24号から46号までの会報を頂きました。

A4表裏の多色刷り、例会での話題、発表された自主作品のタイトル、会員の一言を発表するみんなの広場等が網羅されている大変立派な会報に驚いた次第です。

現在では会報印刷費用の削減化から全員への会報配布は止め、クラブのホームページにアップロードされているので何時でも簡単に見ることが出来るので大変便利になりました。

先日改めて過去に発行された会報をアット・ランダムに幾つか拝見しましたが、発足当時のクラブ運営のご苦労や毎年開催される総会、撮影会、新年会等に先輩達を含めて皆様が大活躍している様子が大変良く分かります。

因みに「会報」の意味を広辞苑で調べてみたら「会報とは会の運営、活動などを報告する文書」と出ていました。誠に当たり前の事ですが今後ともこの原点に立って引き続き回を重ねて多摩アマビ会報が発行される事を期待しています。

「音と映像を楽しむ」

西尾 尚武



多摩アマビ会報100号記念おめでとうございます。役員の皆様に感謝致します。

NHK多摩アマビクラブが発足してから13年、皆さんの作品を楽しみに拝見させて頂き感謝しております。

最近のビデオカメラは、モデルチェンジが早く目移りしてばかりです。今、一番進歩しているのは、誰にでも綺麗に撮影が出来るオート機能です。構図を決めればそれなりに撮影できます。

また、編集ソフトもバージョンアップが早くなり、DVテープからSDカード、それにDVD・BD-R等に変りつつ早いテンポで進んでいます。

それに対応してビデオクラブでの勉強会、会員のアドバイスを受けての作品づくりの日々です。毎月の例会でプロのカメラマンとディレクターから受ける講評・アドバイスが会報に記録されているので、あとで読み返して大変有益であることを実感しています。

体力も落ちてきた今、あと何年ビデオカメラと楽しく遊べるかと思うと、自分なりに絵と音を織り交ぜながらの楽しい作品が出来ればと、いつも夢んでいます。

吉田 努



100号誠におめでとうございます。

いつもわかりやすい記事、ありがとうございます。

また、いろいろなコメント、良いと思います。

勉強不足でなかなか作品を出せず、申し訳ございません。

今後ともご指導宜しくお願いいたします。

「多摩アマビ会報」100号記念に寄稿する

杉山 旭



私が、NHK多摩アマチュアビデオクラブに入会したのは、2008年12月でした。

アマビ会報は、翌年1月の第64号から今日まで読ませて頂いています。

会報の中で、楽しみにしているのは、「みんなの

広場」です、諸先輩の体験談、情報等は勉強になることが多いからです。私が初めて読んだ第64号の「みんなの広場」に岩澤初男さんの「私の物作り」が掲載されています

アイデアの手作り道具を使った独特の映像制作は、私たちを楽しませています。「私の物作り」の文中で小学校時代の出来事に、岩澤さんの原点（物作り）を見ることができました。

これからも「みんなの広場」を私達の情報交換の場として広げていきたいと思えます。

そして、「多摩アマビ会報」が200号、300号と継続することを願います。以上

岡山 正一



年が経過するのは早いもので、NHK多摩アマチュアビデオクラブが14年前に当時NHKのカメラマン志村さんによって立ち上げられ、現在も健在です。クラブが設立された当時は40人近く居ましたが、その当時の人で現在もいる人は10人程度です。

当クラブの会報第1号は今から10年前に印刷され、当時の役員さんは会報作成にご苦労があったようです。

今はもう100号になろうとしています。毎月1回の会報のまとめは現会長から資料や映像の提出依頼等があって本当にご苦労さまです。

いつもこの会報を楽しく読んでますし、映像知識を得るには必需品となっています。会報の内容は月に2人の放談（ビデオ歴、何をしたいか、どんなカメラを欲しいか、等）でその人の考えも分かります。

また、毎月の例会では会員が作成したビデオ映像を会場で上映し、NHKのカメラマンから作品向上のためのコメント、アドバイスを受け、会員によっては次の例会に作り直した素晴らしい作品を見せてくれることもあります。この10年間の会員のビデオ制作技量の向上にはびっくりしてい

ます。

例会後に有志で行っている“反省会”（お疲れさま、懇親会）は何でも気楽に話せる実に楽しい集まりで、私は欠かさずに参加しています。

その他、年1回の撮影会の状況、年1回の部内コンテスト、公開セミナーでのビデオに関する講座（機種、ソフト、扱い方等）内容などが掲載されています。

さらに、札幌、金沢、浜松、広島の4NHKクラブとの親善・交流で、それらの会報や優秀ビデオ作品を拝見させて頂いています。これも渡辺会長の人柄、顔の広さと思えます。

当クラブは恵まれた環境にあると思っております。会員の中にはプロ級の人も居て、親切な人が丁寧に教えてくれます。私ももっと勉強して、もっと良い作品を作ろうと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、会報作成にあたって会長をはじめ役員にはいつもご苦労頂き、本当に感謝の気持ちで一杯です。

「アマビ会報は私の教科書」

浜中賢太郎

この度、多摩アマビ会報100号が発刊され、心よりお喜び申し上げます。



これまでの過程において渡辺代表幹事を中心に幹事の方々の並々ならぬご努力がこの快挙に繋がったと言っても過言ではないと思います。100号発刊の回顧の一端を記します。

皆さんご承知かと思いますが、多摩アマビ会報の前身は「NHK多摩アマチュアビデオクラブ事務局だより」という長いタイトルで、浅尾義明氏（当代表幹事）等によって発刊されましたが、2年ほどで現在の渡辺 實氏に代わり、タイトルも簡略化され、「多摩アマビ会報」として平成15年7月5日付けで第1号が華々しく発足に至っ

たと記憶しております。

発足当時、NHKの志村茂樹氏からサークル設立の声が掛かり、私達、西東京映像クラブの会員数名がそれに参加、情熱を燃やし、「とれたてマイビデオ」「みんなのビデオ」に数多く応募、放映されたのは懐かしい思い出となっております。

その最中、私は平成 17 年頃から腰に痛みを感じ、病院で変形性脊椎症と診断されて、歩くことすらままならず、毎月楽しみにしていた例会も欠席が多くなり、ご無沙汰続きで恐縮して居ります。

毎月届けてくれるアマビ会報は毎月楽しみに心待ちにしている次第です。届けられた会報は、美しいカラー刷りに加えて編集の巧みさで、隅から隅まで拝見し、会の運営状況や、会員諸氏の自主作品、それぞれ撮影の目的、それにカメラマン先生の評はどれをとっても私の教科書となっております。

週 2 回のリハビリの後、体調の良い時には以前に撮りまとめたあるビデオの編集整理、8 ミリフィルムからのビデオ変換に取り組んで老いの防止に努めております。

創立 10 周年記念式より一度も出席しておりませんが、これからも体調の具合を見て、なるべく出席したいと思っております。

発刊 100 号を機に多摩アマビはさらに躍進し、渡辺代表幹事を中心に幹事の方々のご活躍で、より一層の会報の充実を心からお願い致しますと共に、益々のご発展を心からお祈り致します。

誠におめでとうございます。(86 歳)

「第 100 号記念誌 おめでとうございます」

大森 繁子



います。

いつも編集して くださいます皆様、一ヶ月が瞬く間だと思えます。私達はただ読み、見るだけですが、1 枚を作る事となりますと大変な時間と作業（労力）だと思

昔になります。原稿が出来ると、ガリ版でその上に蠟引きの紙を置き鉄筆で書き、出来上がったものを 1 枚 1 枚謄写版で印刷をしたものですから、ずいぶんと時間がかかりました。今はパソコンで出来るので、写真なども取り入れて分かりやすい良いものが出来ますが、原稿を起こすまで（レイアウト）が大変だと思います。

何をするのでも苦勞はつき物ですが、出来上がった物を大切にしたいと思う。ただ見るのではなく、出来上がりの苦勞も見てほしいと・・・私、はじめ皆様をお願いしたい。

編集者の皆様本当にご苦勞さまで。これからも会のため、宜しくお願い申し上げます。

加々美 俊明



NHK 多摩アマチュア・ビデオクラブ会報 100 号おめでとうございます。

入会して間もないのですが、このような綺麗な会報を手にして、見ることは楽しみの一つでもあります。

ビデオの会報を発行しているところは、それほど多くはないでしょう。簡単なようで、作成するためには PC のスキルも必要とするし、また作成する時間も要します。

作成されております、渡辺会長に御礼致すところです。

私自身、ビデオ撮影機器、編集機器がやっと、一通り揃ったので今後は作品の投稿を増やしてゆきたいと思っています。

いつも つたない私のビデオ作品について、NHK の皆様、会員の皆様、親切丁寧な改善点なり、ご指導ありがとうございます。

会報も 150 号、200 号と続くことを祈願します。

「100号記念に思うこと」

加藤 須満子

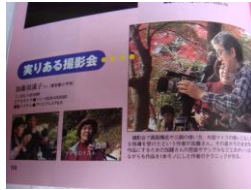


NHK 多摩アマチュアビデオクラブ会報の15号(平成16年8月)で私は入会しています。

それから約7年、会報は今までに84号を目にしていることになります。

NHKの現役の先生方から、直に講評が聞かれるのはうれしいことです。

振り返ると、入会してから約4年間、お世話になった「山下伸一郎先生」ご指導の御嶽溪谷撮影会で「実りある撮影会」作品が2005年7月号・ビデオSALONに掲載されたことがしっかりと心に残っていますが、今はもう先生にお目にかかれないのがとても残念です。



私が入会した当時女性は6人で心丈夫でしたが、今は正会員31人中3人のみとなりました。同じ趣味を目的にしているとは言え男性の中で、今日は私一人かもと心細い思いで例会に足を運ぶ時もあります。

入会した2年目幹事に選出されたこともあり、幹事さんのご苦労も理解しているつもりです。

会報100号記念号発刊に当たり、渡辺賞会長のヒントメールで、この会のホームページでバックナンバーを見直してみることにしました。みなさんのお言葉や作品など あんなこと、こんなことと色々なことが、新鮮に蘇り、懐かしい気持ちとともに、幹事さん達に感謝しなければと思いました。

家族のため、子や孫たちのために映像記録を残しておこうと言う初心の目的を変えることなく、ビデオの趣味は一人になっても手放すことなく続けよう・・・と記念の節目にその思いを新たにしています。

「多摩アマビ会報100号記念

おめでとうございます」

溝口 富士子



いつも渡辺会長さん始め、役員の方々に感謝致しております。

皆様の作品を月例会で見せていただき、海老沢様の講評を聞きながら“なるほど”と参考になります。

また、海外旅行の作品は、見たことのない映像で楽しく見させていただいております。

私ごとですが、プリンターを買い替えてから自分でアマビ会報を印刷し綴っていますが、綴る時に昔の自分の作品の事や写真など見たりして、押し入れからアルバムを出すより楽なので楽しんでおります。

「会報100号記念特別号を記念して」

西永圭芳



今ここに「アマビ会報100号」を迎えるようになった事 誠におめでとう御座います。毎月会員各位の今までの経験を生かした作品ばかり、それも作品にその人の個性があり、面白く拝見させて頂いております。

その代表的なものとして、渡辺会長の夫婦旅、岩沢さんの工夫に工夫を重ね、何か小道具を作り皆を驚かせ賞を頂く達人、古谷さんの山登りの記録等満ち溢れている様です。

でもそれぞれ最初は大変だった事と思います。私もいまその壁にぶち当たっている処です。

HDVからAVCHD時代が変わってさっぱり理解出来ない事があり、仲間聞いて解決着くと嬉しいものです。

最近では編集が完成して、パソコンで音がずれて出てくるのが、ブルーレイディスクでは全く正常に出てくるのには驚きでした。いろいろなトラブルを解決つけて成長していくのでしょう。

以

最近撮影しているブルーレイ映像では、目の前にその実物が手を出せば触れるような感覚で驚いています。

これからもいろいろな手法を覚え学んでいきたいと思いますが、作品もただカットを並べるだけでなく起承転結のある作品作りに努めていきたいものです。